

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	日本企業の中国におけるRD投資についての考察
Sub Title	
Author	張, 承彦(Chiyou, Chiyenan) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2157号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	浅川 研究会	学籍番号	80530634	氏名	張 承彦
(論文題名)					
日本企業の中国における R&D 投資についての考察					
(内容の要旨)					
<p>1、かつて、R&D 投資先が先進国のみとなっていた。“最適な地域で最適な研究開発をする”という R&D 国際化の進めにつれ、途上国も投資対象となってきた。その中に、とりわけ、中国が一番注目されている。2006 年まで、すでに 750 カ所の多国籍企業の R&D センターが中国で設立された。一方、日本企業は知的財産権の保護や技術力などを懸念して中国に対しての R&D 投資を控えている。実際、現地に R&D 投資をしている日本企業がどういうリスクを直面しているのか、中国に R&D 投資がどの進めるべきなのかを探るのが本論文の目的である。</p> <p>2、本研究は、“Plan-Do-Check-Action”を基本フレームワークとして、独自に行った現地企業へのインタビュー結果から、日本企業の対中 R&D 投資の戦略考え方、行動特性を洗い出し、さらに、中国理工系大学院生へのアンケート調査結果を踏まえて、戦略と組織マネジメントとの整合性という観点から日本企業の対中 R&D 投資において発生しそる問題点、並びに要因を分析し、今後どのように対処していくことが求められるかについて筆者なりの考察を加えた。</p>					